

岐阜善光寺とのコラボ企画「メディコス夏まるけ」

目玉企画として、1・2日目に開催されたのが「メディコス夏まるけ」。岐阜善光寺で毎月15日に開かれている門前市「善光寺大門まるけ」とメディコスのコラボレーションで実現したマルシェです。夏の日差しをのびやかな、各日20店舗ほどのキッチンカーや物販のテントがみんなの広場とせせらぎの並木にずらりと並び、イベントを盛り上げました。広場では食事を楽しむ人やイベント用に設置された大きな氷で涼む子どもたちの姿も。ワイワイテラスでは、ステールパンとアイルッシュミュージックのライブも開催され、軽やかなメロディに多くの人が耳を傾けました。



大人気！アートワークショップ「みんなの森の住人たち」

昨年初開催して大好評だったアートワークショップ「みんなの森の住人たち」を今年も開催。13組の参加者が、地元アーティストのサポートのもと、2日間かけてダンボールを中心とした紙を材料に、自由な発想で「みんなの森」に住む生き物のオブジェを制作しました。子どもも大人もダンボールと向き合う表情は真剣そのもの。ハサミやカッターを上手に使い、思い描いたデザインを表現していきます。中には大人の背丈ほどある巨大な作品を生み出すチームも。個性豊かな「住人」たちは、メディコス館内に展示されています。



MEDICOS COLUMN

小松市立図書館との子ども司書交流

岐阜市立図書館では毎年夏に「子ども司書養成講座」を開催し、これまでに150人以上の子ども司書が誕生。子ども司書制度は、読書を通して思ったことや生まれた気持ちを自分の言葉で周りの人へ楽しく伝えてもらうためにスタートし、市民でつくる「てにておラジオ」の番組「小さな司書のラジオ局」にも毎月出演しています。

昨年、吉成信夫メディコス総合プロデューサーが石川県にある小松市立図書館の子ども司書養成講座の外部講師を務めたご縁から、2023年8月に17人の子ども司書が小松市へ司書交流に赴きました。メインイベントとして「わたしのおススメ本紹介」をテーマにした動画制作に挑戦！撮影した動画にアプリを使ってキャプションや音楽をつけていきます。

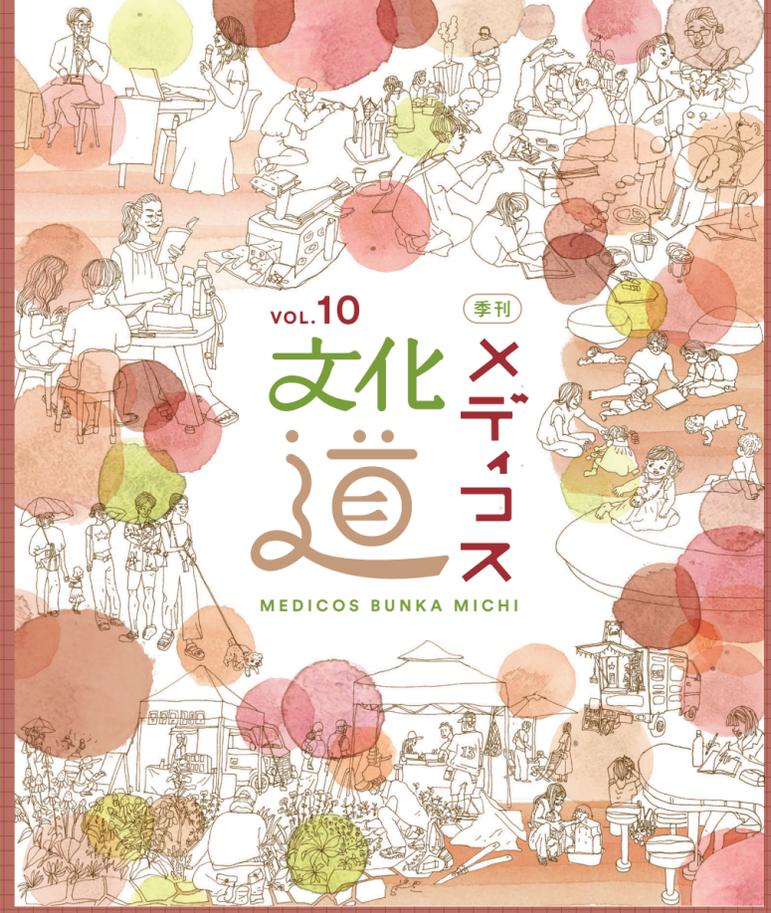
最初は緊張していた子どもたちも、チームごとに撮影や編集をするうちに自然と会話が生まれ、和やかな雰囲気になりました。小松市立図書館の子ども司書に刺激を受け「次はこんなことやってみたい！」と生き生きと語る子どもたちの姿が印象的でした。



**みんなの森 ぎふメディアコスモス**  
〒500-8076 岐阜市司町40-5  
TEL.058-285-4101  
https://g-mediacosmos.jp/

「ぎふメディアコスモス事業課」「岐阜市立中央図書館」「市民活動交流センター」「多文化交流プラザ」の4つの組織・機能からなる複合文化施設です。

季刊「メディコス文化道」VOL.10 (2023年9月発行)  
発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス  
編集・デザイン / さかだちブックス(株式会社リトルクリエイティブセンター)  
表紙イラスト / スケッチジャーナリスト 大角真子



【特集】メディコス開館8周年記念イベントが3日間にわたって開催されました！「まちの未来、子どもの未来」をテーマにしたトークイベントも大盛況。  
【岐阜の文化地図】川原町編

特集 01  
メディコス開館8周年記念イベントが3日間にわたって開催されました！

2023年7月15日～17日に開館8周年記念イベントが開催され、メディコスの館内と広場がさまざまな企画で賑わいました。



2015年7月にオープンしたメディコス。開館から8年を迎えたのを記念して、恒例となった周年記念イベント「ゆったりカルチャー3days」が開催されました。広場でのマルシェや館内でのアートワークショップ、トークイベント、絵本ライブなど、3日間にわたり、メディコス全体で並行して行われた企画は、合わせて10以上にのぼります。中でも、昨年度以前にはなかった催しとして、不登校のお子さんの保護者が主体となり「不登校フェスinぎふ」を開催。対話と講演を通して参加者みんなで不登校に向き合う時間を過ごしました。幅広い世代の人々がさまざまな目的で集う光景は、まさにあらゆる人の居場所として親しまれているメディコスの真骨頂。家族連れや学生、年配の方までたくさんの人が、活気溢れる時間を過ごしていました。

特集 02  
「まちの未来、子どもの未来」をテーマにしたトークイベントも大盛況。

開館8周年記念イベントの2日目に、認定NPO法人カタリバ代表理事の今村久美さんをゲストに迎えたトークイベントが開催されました。



2023年7月16日、メディコス1階のドキドキテラスで100名近くの観客の関心を惹きつけていたのはトークイベント「まちの未来、子どもの未来」。全国各地で子どもの教育支援活動を行う認定NPO法人カタリバ代表理事の今村久美さんをゲストに迎え、第1部は今村さんの講演、第2部は柴橋正直市長と吉成信夫メディコス総合プロデューサーとのトークセッションが行われました。今村さんは高山市出身で、高校時代までを故郷で過ごしました。その後、関東の大学に進学。NPOカタリバを立ち上げてから今年で23年目を迎えます。前半は、自身の生い立ちから、大学時代に出身地や家庭環境の異なる学生と関わり、多様な価値観に触れたことを機に、教育の世界に進むことを決めた経緯、3.11後の現地での子どもたちの支援活動、そしてさまざまなアプローチで「地域の中に子どもたちの居場所をつくる」をテーマに一貫して取り組んできた活動について話されました。

岐阜市長を迎えて語る、岐阜市の教育の未来

第2部は吉成プロデューサーの進行のもと、柴橋市長を迎えてのトークセッション。岐阜市に2021年4月に開校した不登校特別校の岐阜市立草潤中学校の事例にも触れ、岐阜市の教育の未来についてトークを展開しました。

その中で今村さんは「少子化が嘆かれる社会ではあるものの、少子化だからこそ、家庭でも学校でも、一人一人の生き方を認め合うチャンスだ」と述べました。「カタリバ」という団体名に込められているように、今村さんは子ども・大人に関わらず、人と人が語り合う場を取り戻したいと考えています。本当に思っていることを膝を突き合わせて話すことこそが、一人一人の生き方を尊重し、認め合うことに繋がります。これには柴橋市長も頷き、子どもたちの多様な居場所をつくり、守っていく岐阜市の未来の教育に期待し、トークが締め括られました。



お知らせ  
「子どもの未来」をテーマにしたメディコスのトークイベントをご案内！  
[TALK EVENT] みんなのひとりと第2回  
「未来を生きる人づくり」10/20(金)夜開催！  
申込・詳細はこちら  
実践型キャリア教育を展開する株式会社ドングルズの松岡慎也氏をゲストに迎え、今、真に求められる「学び」についてお話しいただきます。

CITIZEN ACTIVITIES FILE

みんなの森の市民活動 02

Happy Choice

犬と猫と人が「ともにハッピーに！」をキーワードに活動する動物愛護団体。岐阜市保健所に預けられた犬のおさんぽ会やトレーニング、里親探しなどを、10年間にわたりボランティアで続けています。

ABOUT 1  
Happy Choiceって？  
岐阜市保健所は今でこそ犬の殺処分ゼロですが、咬まれる、吠えて近所迷惑、飼い主の入院や施設への入居などさまざまな理由で犬猫が持ち込まれ続けています。Happy Choiceでは岐阜市動物愛護推進員である代表の田口尚也さんとボランティアメンバーが保健所に協力して行っている「センターおさんぽ会」で犬猫の心身のケアをしたり、新しい家族を探すサポートをしたりしています。開館当初からメディコスを活動拠点とし、チャリティイベントや活動説明会も実施しています。



メディコス1階の「市民活動交流センター」では、自分たちのまちをもっとよくなりたいという思いで活動する市民団体に事務所スペースと交流の場を提供しています。令和5年度は8つの団体が市民活動団体登録制度を利用してメディコスを拠点に地域活動を行っています。

PICK UP 2  
Happy Choiceのここに注目！

Happy Choiceは2022年にその地道な活動が認められ、自動車ブランドMINIが世の中を良くするアイデアを表彰し、支援するキャンペーン「BIG LOVE ACTION powered by MINI」で、全国59のアイデアの中から見事トップ3に選ばれました。この表彰を受けて、Happy ChoiceはMINIのサポートのもと、YouTubeチャンネル「田口犬学」を開設。ドッグトレーナーとしての田口さんの豊富な知識と経験を活かして、愛犬とのコミュニケーションに役立つ情報の発信にも力を入れています。



COMMENT  
ももとは私個人が何かできることはないかと保健所に通って始めた活動ですが、団体を立ち上げたことで、現在は50名ほどのボランティアメンバーに協力していただいています。困って苦しんでいる犬や猫が、本来の姿を取り戻した時、その瞳の輝きに感動します。これからもコツコツと地道に活動を続けていきたいです。



代表 田口尚也さん

Vol.02

### TALK SESSION

## メディコスと描く まちの未来地図

2023年度で開館8年目を迎えるメディコス。岐阜市の歴史・ひと・文化の情報や魅力を集積、発信する「ぎふ古今」を開館するなど、文化拠点としての役割を深めました。地域の過去や現在を踏まえ、未来をどう描くのか？総合プロデューサーの吉成信夫が地域のキーパーソンとまちの未来を語ります。

## 岐阜らしさ、シビックプライドの“源泉”である川原町。

**吉成** 伊藤さんには、メディコスの「ぎふ古今」の開館時に川原町や十八楼さんの古い写真をたくさん提供していただきました。その多くはご自身で集められたものでしたね。

**伊藤** 主人と私がいずれ父から旅館を継ぐんだと決意したときに、他にはない十八楼の強みって何だろうと考えて、まずは旅館の歴史を紐解き、それをちゃんと腹に落としてブランドの再構築をしようと思ったんです。でも、旅館には写真も史料もほとんど残っていません。この辺りの昔の写真や史料を探して、調べ直しました。自分の旅館の古いパンフレットをヤフオクで買い戻したりもしましたんですよ(笑)。

**蒲** 十八楼という名前は、松尾芭蕉がこの辺りの景色に感銘を受けて記した「十八楼の記」が由来ですね。

**伊藤** 江戸中期に岐阜を訪れた松尾芭蕉が、美しい長良川の景色を眺めた水楼を「十八楼」と名付けたことは、この地域の誇りでした。でも、江戸末期には遺跡もだんだん風化して、名句も忘れられてしまったことを嘆いた旅館の店主が、地域の歴史や文化を守り継ぐと、「山本屋」だった屋号を「十八楼」と改名したんです。当時の主の心意気に触れると、これからも十八楼をこのまちとともに、歴史・文化・自然を取り入れて繁栄させていかなくてはと気が引き締まります。

### 「旧いとう旅館」を「宿いとう」へと再生

**吉成** この「宿いとう」①は、もともとは舟橋聖一の小説「白い魔魚」のモデルにもなった「いとう旅館」なんです。

**蒲** 映画「白い魔魚」の中にもいとう旅館が出てきますよ。

**伊藤** 実はその映画の撮影は冬だったそうですが、撮影のために特別に鶺鴒が行われたのだと聞きました。

**吉成** いとう旅館と十八楼の伊藤さんは同じ苗字ですが、ご親戚何かですか？

**伊藤** いえ、それが違うんです。いとう旅館は当初は繊維業が盛んだった一宮市で商人宿を営んでいたそうで、1946年に鶺鴒観光の宿としてこちらに移転されたんです。皇族や財界の方もよく利用された人気旅館でしたが、1990年頃から休業されたままでした。2015年に岐阜市に土地建物が寄贈されてからも7年ほど手付かずで、そんな「旧いとう旅館」の活用を民間に任せたいとプロポーザルが行われたんです。

**吉成** そこで十八楼さんが手を挙げられたんです。

**伊藤** 周りからもここは十八楼さんしか…という声をいただきましたし、いとう旅館の2代目女将の伊藤照子さんが「この建物を観光のために活用してほしい」と遺言を残されていたと知って、とても感銘を受けたんです。その遺志を継がなくてはとプロポーザルに参加して、選定いただきました。

**吉成** それにしても、目の前に長良川が見えるロケーションも建築も、本当に素晴らしいですよね！旧いとう旅館の建物を残しながら改修するのは大変だったんじゃないですか？

**蒲** 僕も改修前の建物に入らせてもらったんですが、床も抜けてしまっ、ひどい状態でしたよ。

**伊藤** たしかに、いっそう更地にして新たに建てた方が自由に設計できますし、お金もかからないくらいでした(笑)。でも、立派な柱や梁、無双窓、年線(さおぶち)天井など、当時の貴重な木材や贅沢な意匠は大切にしながら改修し、一棟貫しの宿として「鶺(うぐいす)」と「燕(つばめ)」の2棟を今年5月にオープンすることができました。

### 長良川文化に育まれた川原町

**吉成** 蒲さんはどういった経緯で、この川原町とのつながりが深まっていったんですか？

**蒲** NPO法人ORGANが2011年に長良川流域の各地でさまざまな体験プログラムを行う「長良川おんぱく(長良川温泉泊り体験)」事務局を始めたときに、長良川温泉にバックアップしていただいたんです。おんぱくを開催するにあたって、岐阜市の「掘り所」はどこか？と探していて、川原町に辿りついたんです。岐阜市は長良川の文化が生み出したまちで、川原町は「岐阜の文化の源泉」なんだと。

**吉成** まさに岐阜市のシビックプライドがここにあるよね。

**蒲** 2015年頃にORGANの拠点を岐阜市鞆屋町から、川原町にある岐阜市鶺鴒観覧船事務所②の南へ移すことになったときは、十八楼女将の伊藤さんと川原町まちづくり会事務局の玉井屋本舗③さんに大変お世話になりました。歴史ある川原町に新参者が入っていいの不安がありました。周りへきちんとご挨拶をして、顔を覚えてもらい、ときにはお叱りも受けながら、川原町に受け入れていただいて。2016年には、長良川流域でつくられる手仕事の雑貨やみやげものを揃えた「長良川デパート」もオープンできました。

**伊藤** 蒲さんは本当に奇特な方で、2018年に築100年の町家を改装してオープンした「長良川てしごと町家CASA」では、岐阜和傘の魅力を発信していただいたり、川原町のためにいろいろやってくださっていて、頼もしいです。

### 川原町に“観光図書館”を！

**吉成** 川原町の未来についてはどう思いますか？

**伊藤** まちづくりと観光が要になると思います。これから地方が生き残るためには観光を産業にまで発展させて、経済をまわしていかなければいけないと思うんです。

**吉成** ここには岐阜の原風景があって、岐阜提灯や和傘、水うちわ…、こんなにいろんな資源もあるんだもんね。観光で来ても滞在できるエリアだから、図書館の分館を作るとか、“観光図書館”みたいなものがあるといいよね！まちライブラリーでもいい。メディコスと川原町がつながっていくね。

**蒲** それ、すごいですよね！そういう風景がもう思い浮かびます。ぜひ一緒に作りましょう！



TALK SESSION PLACE  
十八楼離れ 宿いとう  
岐阜市元浜町35-6 9:00~21:00(受付)  
TEL.058-265-1551  
https://yadoito.18rou.com/

### TALK MEMBER



### KEY PERSON PROFILE

伊藤知子さんは長良川温泉で160年以上続く老舗旅館「十八楼」の8代目当主・伊藤善男さんの長女として生まれ、現在は旅館の女将を務める。蒲勇介さんは長良川流域をつなぐ観光まちづくりに取り組み、川原町で「長良川デパート」、「長良川てしごと町家CASA」を営むNPO法人ORGAN理事長。

### COMMENTARY

#### 1 十八楼離れ 宿いとう

昭和21(1946)年に鶺鴒観覧が楽しめる料理旅館として開業した「いとう旅館」は、平成2(1990)年頃に休業し、平成27(2015)年に岐阜市に土地建物が寄付された。令和4(2022)年に活用に向けた公募型プロポーザルで選定された十八楼が、既存の建物を活かしてリノベーションを行い、令和5(2023)年5月、一棟貫しのヴィラ「宿いとう」として生まれ変わった。



岐阜市元浜町35-6  
9:00~21:00(受付)  
TEL.058-265-1551 https://yadoito.18rou.com/

#### 2 岐阜市鶺鴒観覧船事務所

1300年以上にわたり脈々と受け継がれる「ぎふ長良川の鶺鴒」。織田信長公をはじめとする時の権力者から手厚く保護され、生活に根付く文化として守られてきた鶺鴒を観光する際には、この事務所兼乗合船や貸切船の予約ができる。すぐ南には、乗船までの待ち時間を過ごしたり、まち歩きや休憩に利用したりできる「鶺鴒観覧船待合所」がある。



岐阜市湊町1-2  
8:45~21:00 ※鶺鴒観覧日以外は~17:30  
TEL.058-262-0104

#### 3 御菓子司 玉井屋本舗

明治41(1908)年創業の老舗和菓子店。季節の生菓子から焼き菓子まで、すべて職人の丁寧な手仕事で作られている。岐阜の菓子屋の元祖といわれる「登り鮎」は、宮内庁御買上の銘菓として全国に知られる。鶺鴒の鮎が下克上を図って鶺鴒を呑み込むユーモラスな焼き菓子「下剋上鮎」を生み出して話題になるなど、伝統を重んじながら、新たな菓子づくりにも挑む。



岐阜市湊町42  
8:00~19:00  
水曜定休 TEL.058-262-0276

## gifu まち歩き MAP

地図を片手に  
岐阜のまちの  
文化を巡ろう

鶺鴒観覧船のりばから西へ続く湊町・玉井町・元浜町。通称「川原町」と呼ばれるこのエリアは、かつて多くの紙問屋や材木問屋が軒を連ねる川湊として栄え、今も白木の格子戸が残る町並みが継承されています。また、近年は風情のある町家を生かしながらリノベーションを施したカフェやショップ、パン屋、ギャラリーなども誕生し、鶺鴒や長良川温泉、散歩を楽しむ観光スポットとしても注目を集めています。



## キーパーソンに聞いた エリアの定番



### A 川原町広場

川原町から岐阜公園を結ぶ地点にある芝生と木々の緑が豊かな広場。東屋やトイレも整備されており、子どもの遊び場としてはもちろん、ピクニックやヨガを楽しむ人の姿も見られる。

とても気持ちのいい広場で、金華山や岐阜城、三重塔も眺められるので、よくお客様にもご案内しています。春は桜もきれいですよ。(伊藤)

### B 川原町泉屋

岐阜の鮎にこだわられる鮎料理専門店。炭火でじっくり焼く塩焼きをはじめ、鮎熱れ寿司、鮎ぞうすい、鮎ラーメン、鮎ピザ、白熱クリームといった、鮎の可能性を広げる名物料理が堪能できる。

ずっと通っている名店です。5代目の泉善七さんはまさに求道者。岐阜の鮎にイノベーションを起こした。“日本一の鮎の店”です！(蒲)

### C 住井富次郎商店

明治中期に創業、岐阜市内に唯一残る手作り岐阜うちわの専門店。風情のある店内で、4代目店主の住井一成さんが昔ながらの手作業でうちわを作る職人技を間近で眺められるのも魅力。

水うちわ、染うちわ、塗りうちわなどがあり、風情ある店内で、ご主人のお話を聞きながら、自分好みの品を選ぶ楽しみもあります。(伊藤)

岐阜市湊町46  
9:00~18:30 水曜定休 ※鶺鴒観覧期間以外は~18:00、日曜定休  
TEL.058-264-4318

## 写真で巡る昔と今

メディコス内の「ぎふ古今」にある端末では、古い地図や写真を通して、岐阜のまちの歴史を辿ることができます。川原町エリアの「古今」の景色を比べてみましょう！



長良川河畔

古 大正期の十八楼旅館

今 現在の十八楼旅館

かつて長良川を見渡した松尾芭蕉が、その景色の美しさに感動し、「中国の瀟湘八景と西湖十景を合わせたほどの風情が、この水楼を渡る涼風にある」として、「十八楼」と名付けた水楼を再興させたのが十八楼旅館。

十八楼をはじめ、川原町や周辺にある旅館では、良質な鉄分を多く含む単純鉄冷鉱泉で茶褐色の湯色の特徴の「長良川温泉」が堪能できる。「にっぽんの温泉100選」にも選ばれた名湯を長良川の景観とともに楽しめる。



長良川鶺鴒観覧船乗り場

古 昭和30年の観光鶺鴒

今 現在の観光鶺鴒

戦時中は中止していた観光鶺鴒が再開し、昭和30年代にはレジャーブームの波にのって観覧船乗客数が増大。チャールズ・チャップリンも昭和11年と昭和36年に鶺鴒を観覧し、「ワンドナル！」を連呼したと伝えられる。

集中豪雨などの自然災害やコロナ禍による乗船者減少など、鶺鴒観覧船事業を取り巻く環境は厳しいが、令和4年には高級観覧船を導入して多様な観覧方法を提供するなど、持続可能な事業形態へシフトする取組が進む。